

生産流通部 集落営農・農地活用班編  
(参考資料：令和元年度病害虫発生予察 技術情報 第3号)

本年度は水稻へのコブノメイガ発生が多く、平年より被害が多く見られます。止葉の多くが加害されると収量低下の懸念があります。JAや生産者からの問合せも増えつつありますので、以下を参考に対応してください。

問1. 最近葉の巻いた稲が目立っているのですが、何が原因でしょうか。

答1. コブノメイガの幼虫が発生していると考えられます。発生している圃場では

- 1) 最近、葉が筒状となったものが増えた。中を開くと緑色の幼虫がいる。
- 2) 白い葉が目立つ。
- 3) 小さい蛾が飛ぶようになった。

のような特徴があります。窒素過多で葉色の濃い圃場で発生が多くなりがちです。

問2. 対策はどのようにすれば良いでしょうか。

答2. 本年のコブノメイガ成虫(蛾)発生の最盛期は8月20日前後と予想されています。

白い葉が圃場全体の10%以上となっている場合は、無人ヘリ防除等に加え出来ればコブノメイガの防除を行ってください。

問3. コブノメイガに効く農薬(薬剤名・剤型)を、いつ頃やれば良いでしょうか。

答3. 液剤か粉剤、または粒剤があります。

- 1) 液剤か粉剤は、圃場で小さい蛾が多く見られた時期から約1週間後に「トレボンEW」「パダンSG水溶剤」等、粉剤は「パダントレボン粉剤DL」等を散布します。
- 2) 粒剤による防除は、圃場で小さい蛾が多く見られる時期に「パダン粒剤4」「パダントレボン粒剤L」等を散布します。

農薬を選ぶ場合は、蛾の発生と、お手持ちの機械やJA等で売っている農薬を基に行ってください。

散布する前にラベルを確認し、圃場外に飛ばさないよう注意してください。